京
東京50
387
別圖
5 6
(40)
2 1

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

帝国図書館蔵

大正
6. 4. 13
購求

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

安宅

裝束之覺

判官　直面　襟　着附　厚板唐織　白大口　水衣

少刀　トキン　スヾカケ　念數イラタカ　扇子

腰帯　紋付　下ニ寄水衣　着候テモ肩ヒケ

大夫　直面　襟　紺　茶色之類　着附　大格子厚板　白大口

八丈水衣　少刀　念数イラタカ　トキン　スヾカケ

扇子　腰帯　紋附

ツレ　直面　襟　着附　中格子厚板　白大口　寄水衣　肩ヒケ

腰帯　紋付　トキン　スヾカケ　少刀　念數　扇子

又リ笠　金剛杖　巻物　笈

判官舞附

●珠數先ニモ千扇右ニモ千シテノ先ニ立次第ニテ出舞台屋へ入打切ニ向合判官子方ナレバ次第乃ノウハズ大人ナレハウタフ●あ宅よ宅ふ宅ゝト祝キリ正●ゆ宅ゆ宅ゆ宅

[illegible]ト祝ヒツレグンミ橋カヽリ（行一ヲノアトニウキ行後見坐ニテ下ニ居杖下ニヲキ板ハメノ方向クワロキヲル●勸進帳スミ急でハ面〻〻ゆゑハト祝ヒシテツレミナハレカリ（行シニフト立杖ツキた（トリ正向フタイ（入是ある〻後カとまを）とこゑトワキ祝ヒカケルト下ニ居立左ノヒザクシテ右ノヒザツキ杖右ノカタ（アテ両手カケウツムキヲル●金剛杖をもつて〻〻トシテ杖ヒキタクル時手ハナシチサゲル●彩〻まを掛する面まとゝゑト杖ニテヨケルト立直ニ後見坐（行下ニ居笛笠トリ初ノ水衣トキンスヾカケキ扇珠數持ツた後見斗ニテ物着スル●ワキを以浮てゆゑ〻〻面〻〻〻トウタイスミシテ後見坐（クワロクト判官立ワキ坐（行ワキ正向立ヲル●はゝ〻〻〻〻体〻あゝ〻〻〻〻〻ゆゑトシテ（向祝キリワキ正（向キ床机ニカヽル●シテいふト立ゆトシテ（向●関のゝものれワキ正（ゑス●〻〻〻〻〻〻〻〻を技ヨシテ（向●クリ地ニナリワキ正（ゑス●そも何とりゝゝんゝゝゝそゝ右ニテ扇モチナガラシホル●実やゝゝゝゝゝゝゝチサケ面ゑス●必世よハ神ルシテ（向右ニテ扇持ナガラシホル●あゝ祝りの浮世や祝スミチ下ケ面ゑシワキ正（向ヲル●〻〻〻〻めゝゝゝゝゝゝゝ

碧巌ヨリ出体あるゝ人もるまてハト語スミ判官ツ坐ヲシテ座カクヨロクヘノ図

正

判官

ツ

ツ

ツ

いろふ色匂ふ浦なみまれとてを
トシテワレハミナ橋ヨリ三立判官
フタイ〈入下ニ居ル処ノ図

正

判官

シテ

●一休芦苅男舞ト同断
尤水衣ユ〈始終袖カ〈スナシ

正高座ニヲル

●男舞カル処ハ
ヤウハイメ立ニ立

シヒヤヲヒヤアリヤリヒヤ

ヒヤリヒウヤラリ●二段

ヲハリ一デ替ルナシ三段

メヨリ珠数扇モチカ〈ル

尤ノ通リ

角ニ右尤トフミコミナカラ珠数右ニ
トリ扇尤トリ常ノ通リ下ヨロ
モクサゲテ珠数ハフサノミカ一ツハナシ
〈行

●三段ヲヒヤヲヒヤリヒウヤラ
リヲヒヤヒヨイヒヤリウリヲヒヤライホウ〜ヒヨリリツロラリウ

正一向右フミ込ナカラ右ノ手前ノ上〈出シナガラ珠
数手ニ一手尤右ト川右ウケ支ヨリ引用〈行此処ノアレツカイ常ノ男舞ノ
通リカハルフナシ又テヲカ〈スト珠数ヲ二ツ〈ハ羽ノナガイナリ

ホヒウウラウリウヒウイヒヤリウリヲヒヤライホウ〜

ヒヲヒヤヒヨイヒヤリウリヲヒヤラリヒウヤヒウルイヒ

正

判官

ウキ尤ヨリシテ柱〈向キ右フミ込
ナガラ手前ノ下〈出シナガラ二キ
タル珠数モドレ右リ扇ヨコニメ
前〈出シレシテ柱〈ユキアト回断
三段ヨハリ一デ替ルナシ

ヤリウリヲヒヤライ

ホウ〜ヒ●是ヨリ四段メ

〈トリツク処ヲヒヤヒヨイ

ヒヤリウリヲヒヤラリ。

尤右尤ト右ノ方〈ツメナカラ尤
ノ扇横ニメ右ノヒヂ〈ヲヲアテ
又面ヲ尤右〈高ノ上ケヲヲ扇ヨ
ノケ又右ノ方〈ヲヲアテ正〈尤ヲ
ミヒラキ右ノ口〈ツミ出シ

ヒウヤヒウルイヒヤリ

右ノコレ入ナガラヒト〈ヲ二ナリ
右ノ手ニ〈出シ尤ノ手後ロ〈
高ノ上ルヤフミ右ヲ川右ノ
ヒザツキ扇右〈サカ手ニトリ珠
数尤リ〈トリ

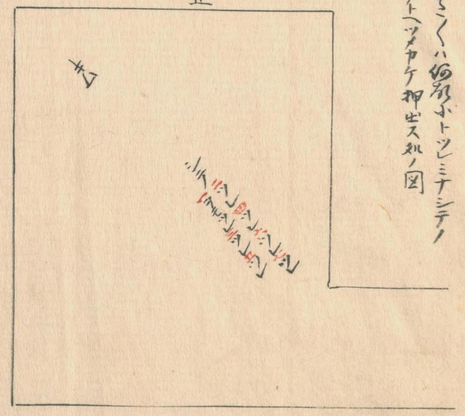
ウリヲヒヤライホウ

正〈ヒザクラカ〈尤
ノヒザツキ立アガリ路

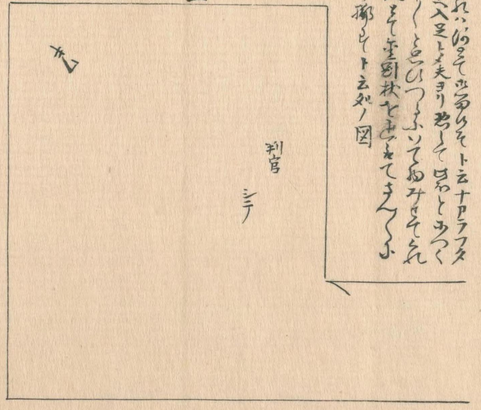
〜ヒ●四段ヲヒヤヲヒ

ヤリヒウヤラリ

ひくくハ御所ホトツレミナシテノアト（ツメヤケ押出スカノ図



なれハ御ふてゝ出家をしてと云ナカラフタイ入ヨトメ夫より勢ゝて見ゝとみつくしくゝとひつふゝてゐみそをれ人をて生国枝をとゞめてさんくふ方都ゝとゝと云処ノ図



安宅

加賀ハ此者ハ。加賀国こゝかしこ行来

かくゝハ。扨も頼朝義経ハ。中石和かふ

らを給ふ。判官殿十二人の従

と山伏と成て。奥へハ下る由軍物

ゞ古ゐ。国ぐに新関をたく

て。山伏をかくゝ撰ひとゞめる

かくゝハ。去間渋谷をゞ来て。つく山

伏をゞめ。ヒロもかくゝ

やゝ。なハ。あるハ。誰ゝあるも　問前

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号　寄別5-6-2-1

ガラス使用

向を後へ立てる間と有り（引上テ）

[illegible]

皆悉く傍合（メンコウヒロケテ根ツヨリ）（引上テ）ふどるみくいの笠

[illegible]（上）

通りをとゞ笠見笠（ワケテ）あふどるみて

いの我れ（サラ）心中よい行様のものの

ごとく。こゝ打彼へ通りもあるしし

（ワキツヒハサラリムフ、ベツラ云ヒスヲシテ皆トトハル
エヘヨナツイテ暫トシツガニウリフヌカサニカ
リシカリツケルヤフニコハ高ニ云ニタ通りすり）

ゆくなん。皆（ミン）（下）伝のこゝ此間一所お

彼へ通りあふどるい者（ワケテ）きるのそ

（引上ユツタリ）次オトリ

こゝ。此こゝ入てする行事う大ゆみくい。

（下ヒリ）

[illegible]

[illegible]（ミン）こゝも如唐ちゝ（ミン）家ひ

笠（エルリ）まつ事しかるものの。我を皆

こゝ皆こゝ少つくい伝（引上テ）ちゝが行とはもの

姿[illegible]

[illegible]（ワケテ）多こゝ（下）

[illegible]（上）何の通方かれ[illegible]

面をゝ（ワケテ）（引上テ）肩ふをゝ。（下）

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号　寄別5-6-2-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号　寄別5-6-2-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号　寄別5-6-2-1

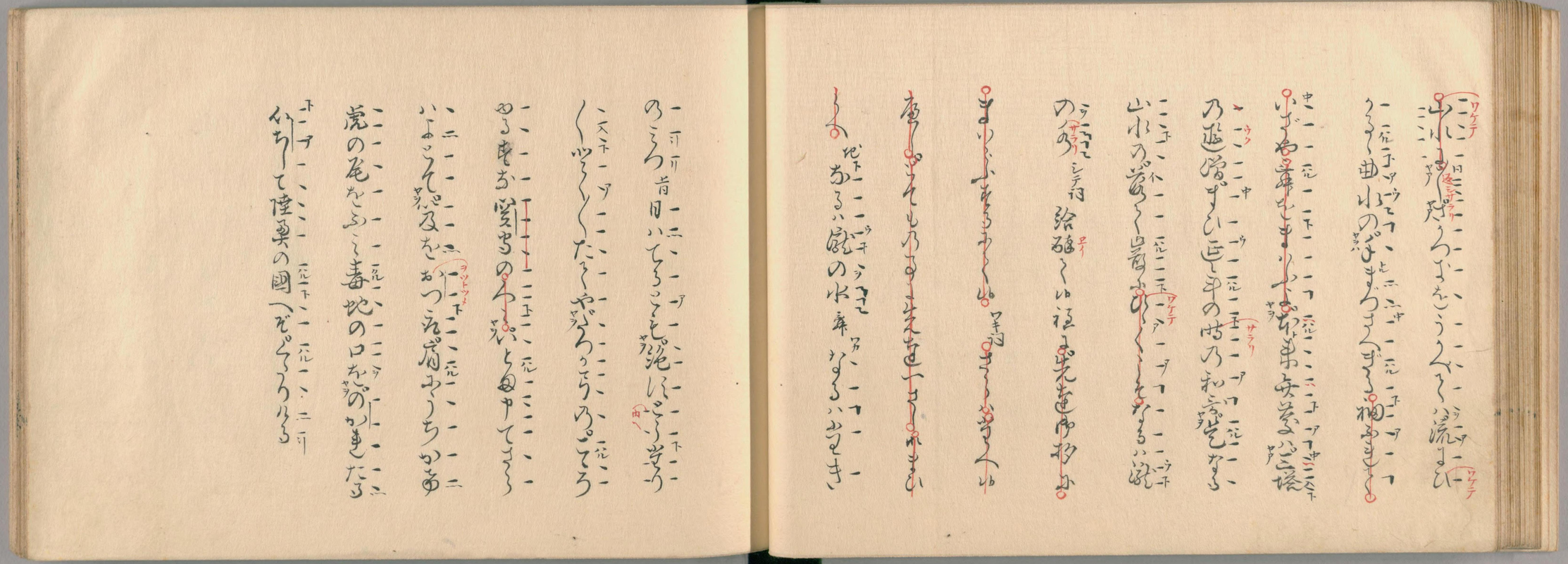
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

勸進帳

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

勸進帳地指子附

ツレ山伏舞附

●珠数左ニモテ肩右ニモナシテノアトニツキ沓オミテ出ブタイヘ入加圖立ナラヒ手切ニ向合ウタフ●皆[illegible]ふれ体わ〳〵ふもるもてゝはト謡スミ順〳〵ニ加圖判官ノツギヨリワキ正向下ニ居ル●シテ笛ヲ判友ノ前ヘモチ来リ下ニヲクト判友立クツロク其時ヲモツレ一人後ロヨリ笛ヲワセテ傳メ物着サセル判友ノ次ツレノ上ニ立チタルツレヲモツレトム物着シテウトヱノ坐ヘ行下ニヲル●さらむ皆〳〵ツヒ[illegible]ハトツレミナシテ向ヲモツレ[illegible]ハト謡イキリツレミナ立判友ヘ向立ヨル●さ〳〵ハ皆〳〵ツ通ハヘトキイテツレミナシテヘ向ヲモツレ[illegible]ハト謡イ立ニツレミナシテノアトニツキ板ハメノ方ヘヨリテ橋カヽリヘ行シテニツキテ幕キハヨリ又カヘリ一ノ松ヨリ段〳〵順ニ立シテノ方向立ヲル●皆〳〵ふ[illegible]トキイテ[illegible]ハトウタ翁ミナ前ヘサシ珠数右ニモチカヘシテノアトニツキフタイヘ入加圖ナラヒ右フミ出シ大ロノウシロヲトリ下ニ安坐スル●[illegible]ミナ一シヨニ居立珠数両手ノ中ユヒヘカケテ両手並ヘ出合掌右ノ方ニ居ルツレハ右ノヒザツキ左ノヒザ立ル左ノ方ニ居ルツレハ左ノヒザツキ右ノヒザ立ル●[illegible]珠数モム処上ノ方ヨリ下ノ方ヘモミサゲ上ノ方ヨリユビサキノ下ルヤフニモム●[illegible]又安坐メ珠数右ニモチヲル●[illegible]ハトシテウタイ橋カヽリヘ行ト一チアトノツレヨリ立シテノアトニツキ橋カヽリヘ行ヒワキハシテ足トメヒクノ方向ヲル左板ヘノ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

方ヘヨリテ立ヲル●モハ我者ノト判官ノ方向判官ヲ
ミル一説のふらん孫数何レモフトコロ入ル●皆一説
立帰ると右フミ出シ右ノチツカヘカケ左ノチサヤ カ
ケル●向ヲ立ちんまかトキリテ両手ハナ
シ体ヲ立シ判官ノ方向ヲル●源八さうかトミナツカ
くトフタイ入地圖ニタワカレニシテノアトツキシ
テノ左ノ方ヘツクハ右ノ足シテノ左ノ足ノ内ヘフミ
コミ右ノチツカヘカケ左ノ手ニテシテノ帯ヲモツ
此アトニツクモノミナコノ通リ右ノ方ニツクモノハ
左ノ足ヲシテノ右ノ足ノ内ヘフミコミ右ノチツカヘ
カケ左ノチニテシテノ帯ヲモツ此アトニツクモノ
ミナコノ通リ如此ハ是ヨリ足ノウラヲ
下ヘ分ケスリ足ニテ左ノ方ツヨクシテラワキノ方
ヘ押出ストシテ扶ニテ左ノ方ヲサシ出シアトヘヲス
ユヘアトヘダン〳〵下リ又おく宮ゆうめ光りうと
ノ辺ヨリ右ノ方ツヨクシテラヲシ出スシテ扶ニテサ
シ出シアトヘヲスユヘダン〳〵アト下リうらゆくふ
めうとかさくトシテアトヘヲシ込ユヘシユンジテアト
ヘ下ルいとミかまるを一タフニシテラ押出スいろ
ゆるて驚トシテ扶ヲ並ヘツクヲ見ルト足トメル
●もや〳〵四方ろ〳〵トツテ手ヲハナシ初道行
スミ坐分タル通リニ地謡ノ並ヘ行ナラヒ立ヲル●皆
くふ平ろ〳〵ツレミナシテ向ヲモツレ彩りト
謡イツレミナ下ニ居ワキ正向ヲル●ろ〳〵立ち
ト立順ニタン〳〵入ル

シテ舞附

●水衣肩取ラズ珠数左ニモ千扇右ニモ千判官ノアトニツキ次
第ニテ出ブタイ入打切ニ右ノ足ヲカケテ向合ル扇フ地取合カ
扇フおまゝ衣もゆ〳〵ケの袖まてるやうけめくん●相南付の
右ノ足カケテ左ノ足フミヒラキ向ガワノツレヨリ兵ニ手前ガワノツレ
ヲ見ル●伊勢の三郎正直ス●立後ハ上向合●神ノ手ヤ正ヘ
直シ●松の木めめ山右ウケ●ちえたるハト角ノ向ヲ見●河流
乃水の角シツカニ●おひく鼠の足トノヒテ向ヲシカト見た
ち〳〵きハヨリ右ノ足左カケテ元ノ立ナラビクル父行ゆにハ
アトト足トメ返シニ向合●ほとゝぎすほとに正直シ扇フ●ちい
くけ雪る判官向ふ体くのふ出るすくハト謡キリ右トリ
後見坐ハクロキ下ニ居ツレミナ坐付ト立左トリ正向出シテ
柱ノ内ニテ判官向少シ腰ヲカゝメ中ヘスラ〳〵トヒ足トメル
ト判官いふ安宴ト扇フ出ニ右ヲ川下ニ居左ノヒザクテ左ノ
ヒザツキ両手ツキジギヲシテ向ヲ人にルト扇フ●いやのくも
少シヲキテ判官ノカホヲ見テ扇ヲ出ス又深クジギヲスル
●言倍道ノヲキテ両手上ケル●是ハ少〳〵キ両手ツキ向
ヲ合あ〳〵ふフカクジギヲスル●是ハ左ヲすのヲキテ両手アゲ
●ゆ〳〵ゑ中のツレノコラズヲ見ル●あゆ〳〵ゑ中ハ正ヘ
ホス●ちち〳〵くツレヲ面ヲニテ見テ仰の〳〵トカタチ
ヲツレヘ向ケル●ちいさいんする少シビテツレヲシカト見向
左ル〳〵〳〵ツレヘ云バナシニシテ判官向只仰ゆ〳〵
両手ツキジギヲスル●是〳〵ふフカクジギヲシテホニシキテ
正ヘホシ面下ヘトツテ少シ考ヘテ面ホシナガラそまゝ
まろとト扇出ス●何とやう〳〵ゆ判官向両手ツク●恐
多きや其ヲ少シフカクジギヲスル●中〳〵人ハフカク

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

ジギヲシスル●実是ハ左ヨリシタヲ上ケル●裏ヘハフカクシ
ギヲシテヲキテ両手アゲ正（ホシナガラいふ合カト思フ
狂言目付柱ノキハ（出両手ツキ居ヨルトヲ図テ面ハ
カリニテ狂言ヲミテ笛を持〳〵来ると〳〵ト思ヒ狂言裏
ヘハトヲヲ図テ面正（ホス●狂言笛ヲモナ来リシテノ右
ノ方ノ前（レンシャクノ方ヲシテノ方（向ケテヲキ笛を持
〳〵来〳〵ハトヲヲ図テ笛ヲ見テ居立笛（向キ左ノ手ニテ笛
ノウシロノ左角ヲ持右ノ手ニテ笛ノ手前ノ方ノ右ノ角ヲモ
チ立ヨレコシヲカヽメテ判官ノ前（ヲモクサフニモナユキ右
ヲ川下ニ居立笛下ニヲキ負フ方ヲ判官（向テヲキ立右
（トリえノ処（ユキ左（トリ狂言（向キ汐ガ笑を〳〵ト思ナ
ガラ下ニ居立ハ此ヨシ右ノ手ヲヒラク●狂言さんぬめ〳〵
がとゞすき）トクト下ニ居ル●ホ此ふんく〳〵まゝハ（狂言
畏〳〵ハトヲヲ図テ正（ホシヲル●狂言一ヨそつ〳〵ゆく〳〵ハ
トヲヲ図テ休ヲ狂言（ヨシムケ面ニテトクト見テそゝ）ハ何
とつ〳〵ゆく〳〵有そト思●やうて汐ゆうすりまゝハ（狂言畏
テハトヲヲ図テ居立テツレ（向さ〳〵ハこゝか〳〵汐立ノ〳〵
ふするうそハト思ナガラツレノコラズヲミルツレ思ひてハトヲ
ヲキイテ立判官（向キ笑やくま）おぬハトウタフ●坂の合
カ分正（ホス●笛の上ノハ判官（向キ●汐有探ゞ痛と
〳〵キ二足下リ面下ケ心持向直シ判官ヲミテ我ぞよ
ア姉ヨトウタフ●さ〳〵ハ〳〵ア〳〵（向●ツレ思ハハトヲヲキ
イテ右（トリ橋カヽリ（行キツレ山伏モアトニツキ行ク左扳ス
ノ方（ヨリテ行幕キハヨリ左（トリテカ（リフタイノ方（出カケ
ルト狂言ハふ〳〵山伏達の方ハ思ひ通ハハトヲシテフタイ
（入シテ狂ノ内（入ルトワキ〳〵〳〵〳〵客信達トウタイカケル
足トメル●ア〳〵ハ是ハ面白ワキ（●先急ふ出入ヲ二足ツ

メル●ホ此踏ハ正●ホ此の思ハハワキ（さんハ
狂言正●ア面白ハハハハハ（ハ思ハ二足ツメ
ル狂言ヤ〳〵のるるおしやつとまるも三人ハ切てうけて
ホハトヲフフキ、ホ此の切ハ山伏ハ判官及ると面
ヰ狂言ハ向●ハ〳〵ひつ〳〵ハワキ（向キ左右ト二足クツロク
●ア汐ア日ひかゝる正●ア笑ふ汐也少シ右（向下ニ居立
左ノヒサタテ右ノヒツツノ後見水衣ノ肩ヲアケル肩前ニサシ珠
数右ニモナ立下ニ居ラズ水衣ノ肩トラヌ昏業ノ方ニアルハ以前
ノ形普観院ヨリ以後ハ此形ヲスル●ア〳〵ホ此ア〳〵
トツレノ方（体ヲ少シ向面ニテツレノ方シカト見テウタフ強キリ
正先（出左ノ足ヲ出シ大口ノ後ロ両手ニテ引上ケ正向安坐スル此
処圖面ニ委有之ア〳〵ホ此ア〳〵ト強キリ正（出カケルト離
子方ノウト歩出スツレノコラズ安坐メシテウトいてく〳〵トウタイ出
スノアトイクツメトスキマリハナシツレノコラス安坐スルヲ見合テ
ウタイ出ス●ア〳〵ア〳〵左ノヒサタテ右ノヒツツキ居立
ナカラ珠数両手ノ中立ヒ（カケ正（両手合セ●ア〳〵珠
と珠数モム珠数モニズ合掌シタ手ニテモヨシ●ホ此珠
数ハ如ク安坐ノ珠数右ニモツ●何と勧
ア〳〵と面ヰニテワキ（●ア〳〵ト（ツメノキリ面直シ立
右（トリシテ柱ノキワハ行後見巻物持出シテ柱ノキハニテワタス
巻物ウケトリ左ニモナ左（トリ正向ア来勧進帳ハトウタ
イナカラ目ヲ柱ノキハ（出正ウケ下ニ居立左ノヒサタテ右ノヒサ
ツキ勧ア〳〵ア〳〵ト巻物両手ニテヒロゲ見テウタフ●
ア〳〵の巻物ヲ二ツ左勧進帳ヲ外別附ニ有之●ホ此ひて也
通ヲ〳〵ア〳〵ア〳〵ハトウタイキリ立右（トリ橋カヽリ（行後見
坐ニテ行ナリニ巻物後見（ワメシアユミナカラ珠数フトコロ
（入ル左扳ハメノ方（ヨツテユキ幕キハニテ正ウケ立ヲル●

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

左ノ足右（カケテシテ柱ノ方（行ナガラ扇ヒロケシテ柱ノキハニテ立ナカラクミ比クミヤフイツハイニ下（ハビヒロククム左（トリワキ（向語ヒ〳〵ハ極ホトウシイナガラ扇ヨコニシテチウニモチ中（行ワキ（向ナガラ左ノヒザ立テ右ノヒザツキ下ニ居立●一さ〳〵ハ森〳〵トキイテ扇タヽミ正（ホシヤハリ居立ヨル男森笛吹出シクツハイメホニ立ニイニナル●ワカケるハ流の為上ケノ扇●月ハてるゝ左右メホニ左ヲ川ツレ（向こく〳〵ゑやトツレヲ上ヨリ下ニテミル●かゝるすゝヲワキ（向出ヒラキ下ニ居立いとゑやてジギヲスルさ〳〵ばよゝてヲキテワキヲミ●ハ夜をおつゑ居ナリニ左右ト二足並（ツメナガラ扇右ノ方ヨリ並ノ下（ヲロシ（ホニ立ヒラキ扇カタ（アゲカワダヤフニメ尾の尾をふゝ毒蛇サシテ右（足）リシテ柱ノキハニテ右ヲノリ込ぶち〳〵て右（トリ正（ヒラキ右ウケ二足（ツメトメ柏子フミ入ルむ右ノトコトノ柏子ナシトモヨシ

委附

●神うきや（ヤヒバキニテ正（ホニシ）松のきのめ山ゆ（左ノ足（ヒナリ右ノ足フミヒラキ右ウケ向ヲ見）ゆく先ゑ〳〵るハ（右ノ足ヒシレヒナリ角ノ向ヲ見左足ヒシフミヒラキ角ノ向ヲ見）松山人のいゝ心ろ（ノビテシヅカニ角（一ホ）何求の小の●何の篠原（足ヲメ角ノ向ヲ心ビテシカト見）波よせ〳〵かゝるこく（右ノ足左（カケテ左リ（カ（ヘリ）あぶし〳〵ろもゝ〳〵きそ（ホ位テラヒタル心（行行ナリニ）花のあ宅さ若に〳〵（逆レニ向合）●何出こゝあるゆ来（ハカルヤフ心持ニテ心レハビテツレヲシカト見）バカナヲヲイヤルナトゑ心持ニテゑバナレニシテ判官（向両手ツキニビキスル（ホ正面タル心ワキニ義経ニゑヲヲサトラレヤフニ何シテヌクルハ大るすそは兵何ともし〳〵て●さんはい利朝

カホニテキ、テヲル義経（中中不和に●孫敦さ〳〵と押もめは（居立テ孫敦（両手ノ中ユビトサホユビトニ本（カケテ両手ハ合セヲトリニ下ノ方（手サキヲサケテ心レモミ下ル）

（心レ敵（ホツレノ様子ヲ面斗ニテ心レ兵目ニカケテヲル）

●ゑハ家兵をなのや〳〵むるハ

正尊

装束附

一大夫　直面　沙門帽子　厚板　大口
水衣　腰帯　小サ刀　扇子

一後　同　長範頭巾　厚板　法被着ル
半切　コシ帯　長刀

一義経　黒風折　唐織
腰帯　小サ刀　長絹　大口
扇子

一静（子方）　カツラ　同帯　箔　唐織
緋大口　コシ帯　扇子サシ　太刀持
後太刀持

一姉和　チラシ髪　白鉢巻　厚板　側次
大口　腰帯　太刀持
外ニ二人同出立

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

一義経方連二人　折烏帽子　掛直垂　厚板
大口　コシ帯　小サカ　扇
後ノ　烏帽子取ナラシ髪　白鉢巻
モギトウ　小サカトリ　大刀持
縄懐中

朱書シテ付
藍書判官付
紫書シツカ付
ウワ汁書　江田付
●姉和
○立衆

合黒土書　堅井付
墨書　ワキ付

正尊

是ハ西塔武蔵坊弁慶ト云
者ト聞ク。我ハ鞍馬ノ僧侶ニ
大名十人付タリトモ物ノ
中不和ニ成給ヨリ心ヲ合ス一人
宛参ル事ハ稀ニ有ル都ニ
正尊ト云者ハ無ケレ
ト聞ク者ト語ラヒ
給ツレトモ
ヤ
ら語ラシ
ヤ
光世方ヘ
ト
義ヲ
光世ノ
ヲ

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

おなじ事ゆへ申せとゆへ申ハ都ゝ前
ハ申細なくゝ事ゆゑ申ハ海道なと四
石橋かけ〳〵ゝ敵ちを護ちを張へと弘
ゝ後ゝ申ハ（ジギ）（判官向西面ヲ上ゲヲル）ゝ申ハ事ゝ義
經なとゝ申ゝ後ゝ弘ゝ
（ジギ）（判官向）御後ゝ大ゝ
宮ゝ法ゝ國ゝ
ゝ

たちをかゝ武藏殿ゝ武藏殿ゝ
ゝとゝ申ゝ弘ゝ御兄ゝ
ゝ
（判官向両手ツキウタフ）（サシ居立）
ゝ
（判官向）（ジギ）
ゝ
（ジギ）
ゝ
（ジギ）
ゝ

かくのごとく南方の席を過ぎ
んとすれば若たちの文者
自筆の書を手に持ち慶あれ
前行下ニ者文判官見セ又元ノ生ノ行下ニ者
なれば
又本
敬く白状の文の
事上は梵天帝釈四大天王婦魔
法王五道の冥官閻魔王府君下界
の地獄伊勢天照大神を始まり
住吉宮根富士浅間熊野三所金
峯山王城の鎮守稲荷祇園咲
花貴船八幡三所杉尾平野
て日本の大小の神祇冥官
[illegible]
[illegible]
[illegible]

これあらはれ給ふ事は御罰をあら
ず番世行鼻を過ぎ花せられん
若あり仍く記置文かくれと
し文治元年九月日[illegible]
よ[illegible]
[illegible]
[illegible]

此間ニワキト狂言トカケ合アリ

△

●コレヨリシテ方物着

長絹肩ヌギ

烏帽子トリ掛直垂マキ

チラシ髪白鉢巻太刀

持

熊井モ同断

判官 靜 江田 熊井 物着スミ正ヘ直リ下ニ居ルワキいろはと上ゲト

カケタフ

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

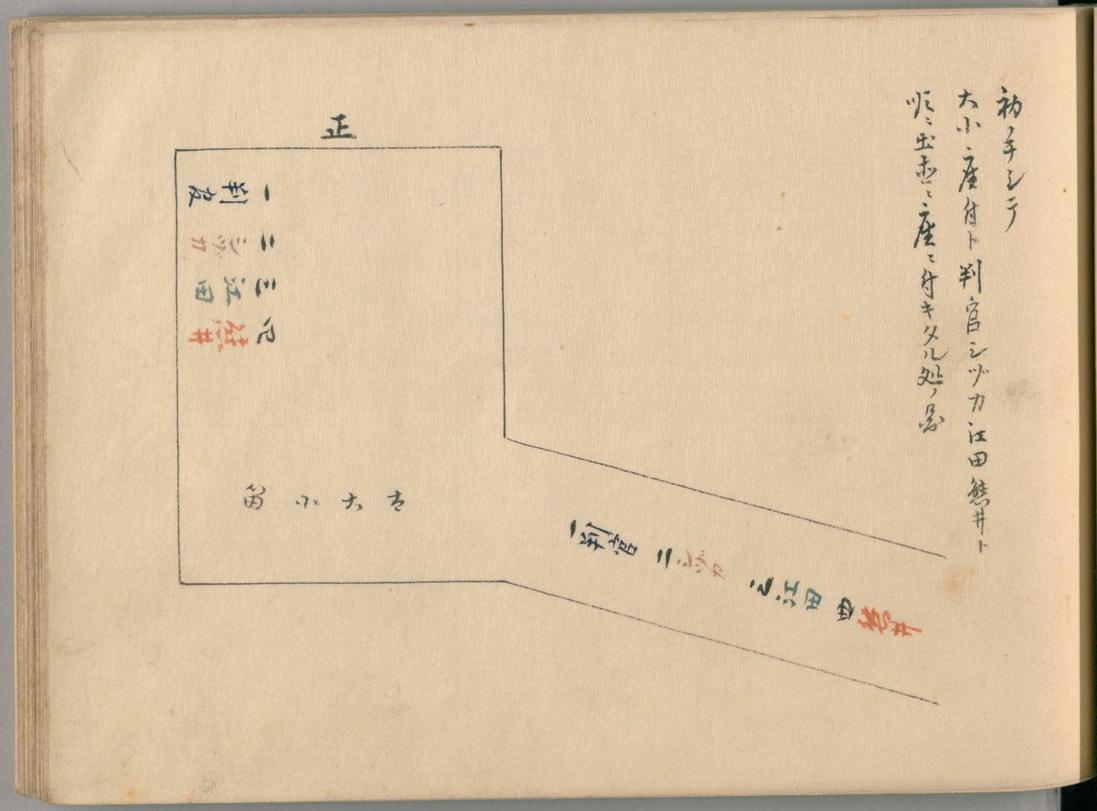
ガラス使用

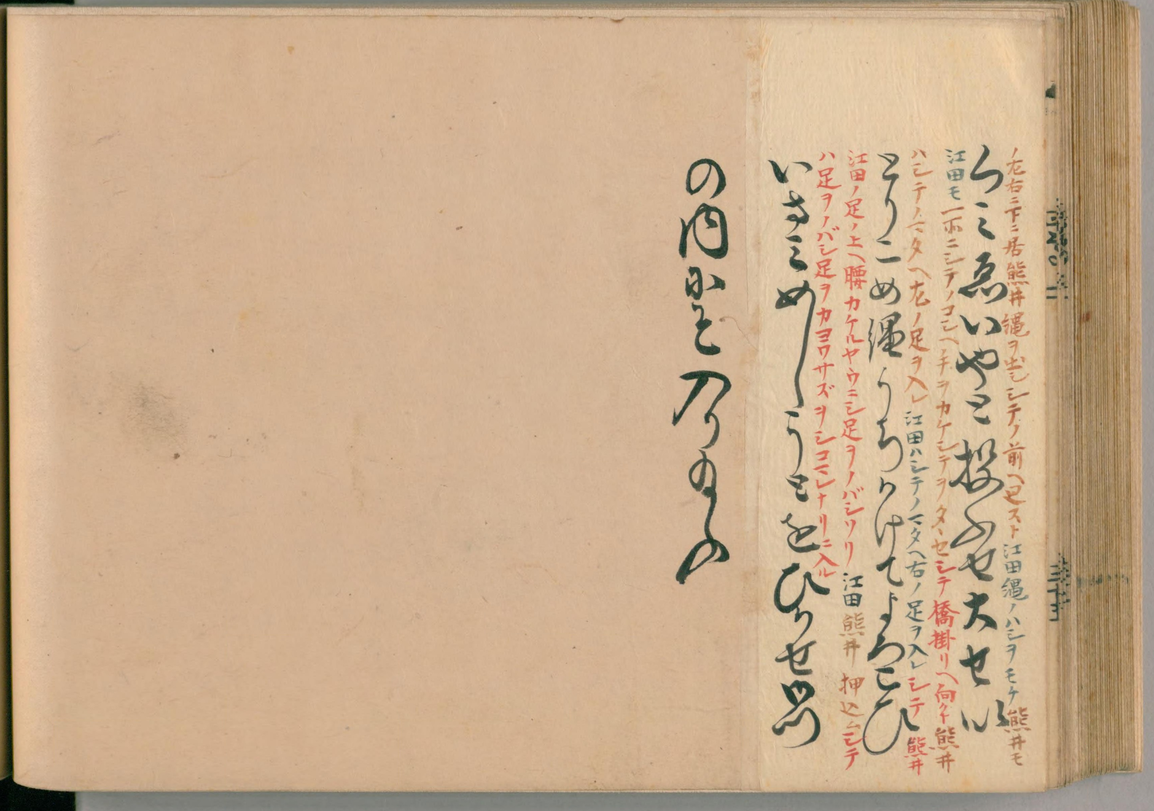
国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

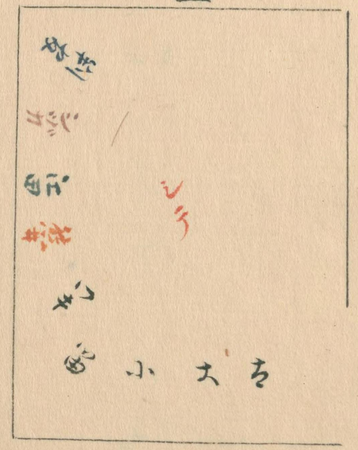




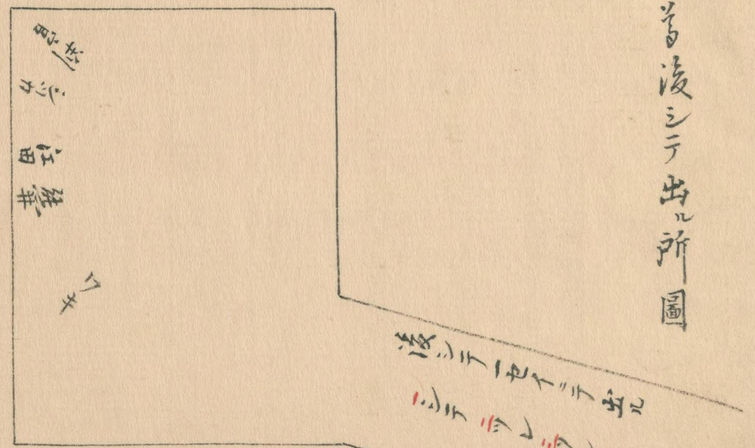
国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

シテフタイ（入さうへ）ふれ〳〵ト
キイテ中へ出ヤウニ長タル処ノ事

正


シテ
ツレ
ツレ
ツレ

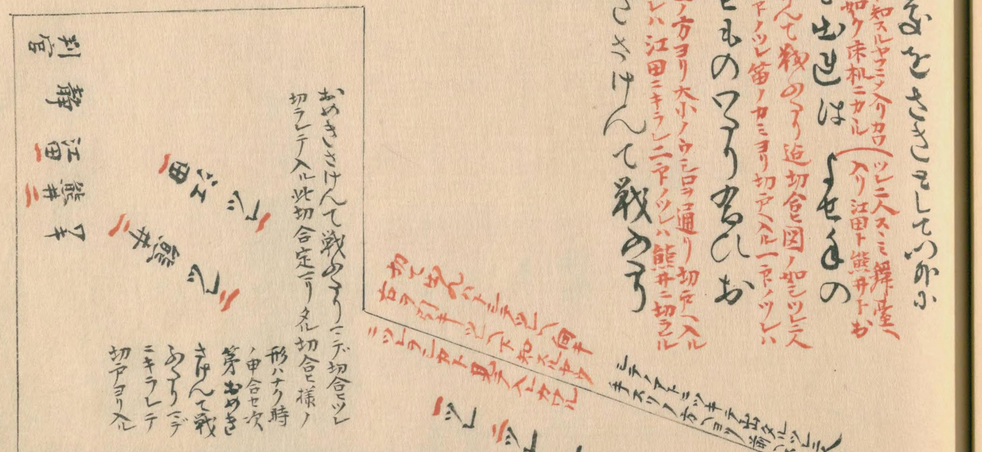
正当後シテ出ル所圖



○シテ方立衆二人トモ太カ鞘ヲリニ左リノキ、特出ル舞ノ後入シテ、太カヌキ鞘ステ舞基ノ入ル

門外ニ切て出きれト判官江田熊井○シテ方ノ二人トモ太カヌクト直クニウシロノ入ル

正



矢ぐるをさきをしたつかふ

シテ方ハ和スルヤウニ入リカロ（ツレ二人スミ鏡ノ座ニ入リ江田ト熊井トお

切て出るは　もとのの

圖ノ如ク床机ニカカル

めきさけんて戦のうり迫切合図ノ型ツレ二人キラレニテツレ笛ノカミヨリ切テ入ル一テツレハ

つるものうりうしお

お敷坐ノ方ヨリ大小ノウシロヲ通リ切テ入ル一テツレハ江田ニキラレニテツレハ熊井ニ切ラル

めきさけんて戦のうり

おめきさけんて戦のうり迫切合ニツレ切ラレテ入ル此切合定ニリ名切合ニ様ノ形ハナク時ノ中合セ次第ニ

筆おめきさけんて戦ふうりニテ切合ニキラレテ切アヨリ入ル

判官　静　江田　熊井

ツレ二人姉和太カ左リニ鞘ニテヌメ持テ出ル

判官静江田熊井ワキ

もしもしゝ少シ出掛ニテ方向切ゝ

ものゝと連方判官ハジメ四人モ太カヌキ後ロニカニヲル

○判官　静　江田　熊井　ワキ　太カヌキハナシウシロノ上ノ太カ

アゲテヲル

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

押なをし（ひきと組ひやとるけ
ふせ大勢ゑもめ縄をかけて
ろうこひ

一 熊井
一 江田

正

ワキエイヤトシテ手ヲ広ケテシテヲトヘ
園ノめクリ後見出タ大勢ゑもめとハ
クレ右ニ成リツキ熊井シテノ二エハ右ヨ
江田詰ゑ（う引出
タヘセ江田熊井ナ
ノめクリ後（引キヨル
井惣中シテ出ル

ワセ江田熊井
シリ）出テ居ノめ
リたりへナクルト
ショロコヒトシテヲ
ワカケルトワキハ居
ム初メヨリ縄熊

シテ
仝
〃田
〃
ハキ
地謡

四人をひりせ右門の内ゑ
入り舞ふ
右之処ノ舞

正

江田左リヒザヲシテノニタヘ入レ熊井右ノヒザヲシテノニタヘ入レ
テ二人シテシテノチツカヒヘシテヲ幕ノ内ヘ押シ入ル右シ
テハ足アユニス江田熊井ニ押入ラレナリニアヨムケ
ニソリ夫ナリニイル夜ち明ル通り

田熊井
地謡
ハキ

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

シテワキシテツレ謡口爰ニ記ス

●ワキ是ハ西塔の武蔵坊弁慶ぞ●シテ武蔵坊
●ワキ弁慶ハ●ワキ如何に●シテ是ハ宿駅
の●ワキ番所なりに●シテ罷てはべるも
●ワキいやいや片時も早く●シテ是ハ扨ていそ
ぎぬ●ワキさしも別るシテ去程に北
なまはれいかに●ワキいうに中上は土
佐正覚と●判官申さん〔と申はワキ罷ていると
云●判官いふ去程に●シテ是ハさし
ていまも●判官よもさはらじ●ワキ此の
ごとく大名と●シテはるばる如何なる●判官御
所さん云ふより●シテ其ゆへいかなる
らん●北嶺堂の所を●シテ敬て申給ふの中
●北なるに虚空とは●静君ら代ふ●北白雪なる●静
かなるぬ翠と●北なるぬ翠と●ワキいかに中上は
●判官なるに是ハの●ワキ其ゆへにて●静去川ハ
是皆●北我独是をとめられつ●姉和泉ツレ二人謡ノシテハ
不謡ハ●北味方の勢ハ是を見て●ワキ去程に
とり●北味方の勢ハ是を見て●ワキ去程に
ありてふたゝび●姉和大物うこせて かゝりし●
ワキ天晴 是迄の●姉和ことのあふ●ワキ実
ゆゑも●北去程やうてゐるを

忠信

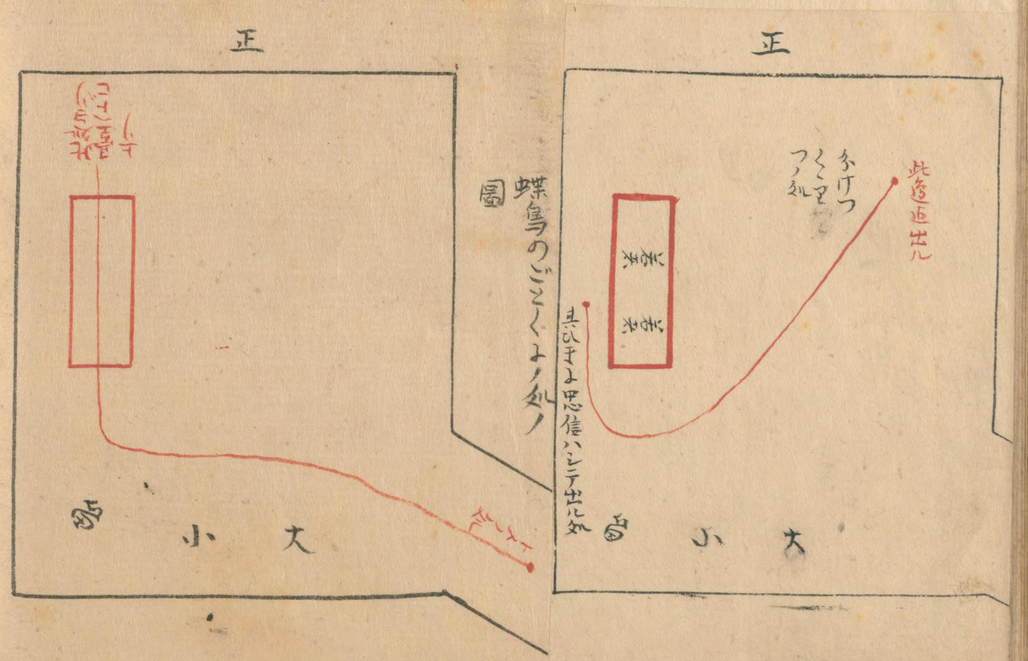
装束之覚

一判官　黒風折　厚板　長袴　白大口　腰帯　小サ刀
　扇子
一太刀持　頭巾目　素袍　小サ刀　常ノ扇子　太刀持
一太夫　直面　侍烏帽子　厚板　白大口　掛直垂
　腰帯　小サ刀　扇
一後太夫　散ノ髪　白鈴巻　半切　法被　両肩上ヲ取　腰帯
　太刀　弓矢
一法師武者三人　沙門帽子　厚板　水衣肩ヒ　白大口　腰帯
　先キ法師　長刀　跡二人太刀
一若武者二人　散ノ髪　白鈴巻　側次　大口　腰帯　太刀

正

大　小

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用



忠信

味　ミテ　藍具　判官初若番

合せ黄土　アトノ若番太刀持

ニテ具　法師武者

初メ判官太刀持出ル判官ワキ坐ニテ床机ニカカル

ワキ　太刀持地ノ方ニテイル太刀ニヲク

判官　所用ふ仕習ハ

三ツ巴義経ゆてハ面と云きれ

判官　ゆ執ゆ節をたのゝ事ハ

爰ふ所作の沿革ゆ有ゆ夜

ゆ付ゆ事一定のやうふハ有

ハ事ハとゆやと有ハいふふやとハ

判官ワキ向キツヾケ

義経ゆさんしてハ判官こゆ

ゆりん　ワキ　思ハ判官面白ゆハ

何のゆふゆりて有ゆワキさん

ハ只ゆとゆるゆ段の義ふハゆ

主馬の者ども参りし
めて夜ふけるを待つて事
一定れ程ふかい召捕事申さ
れたるを見て申しては判官是は
御ふて有り口惜
や我いくたくれ殿とのうち
命を重んずる事と胡蝶の
きよめいとをらさん其為な
らされば高山の流れ苔の
すつるを苦しらるるでら色
偽ふるの浮が復なりとふ

角は我は庵に入れ取と聞く
て一旅の一人を西の浦に
ふを射て後命を全して
渡りて其分つき有やみ武蔵
とのうち 口キ 浮殿畏くあれは
去れうら其をたて免皆何国
とも浮偽とこ様ふ人を忘れ
なるら流るるを古おりを
作なら是よりと殿 判官 大変
我らの事ふ不為をしらは作為忠
信を付ものとやらん 口キ 判官正直ス 畏くん

いらふ世間のうちふ忠信の涙
ひらシテ（二三足出テ）袖ふく涙ひ（ワキ）忠よ（下居チツキ 首下ケ）
ヲの所使ふ第四ら手ーてノ
そこ一所用のるうをはをふ
りあきとものるるふくいシテ裏
くいワキ（立内ヘ入り 中ニテチツキ）忠信とふりていい裏いら
ヲ忠信為山の者とを習ー（判官シテ向中程出ヲ見テウタフ 跡シテ向ツケ）
ヲ狩衣ふ所ふくき事一定れ狩ふ
ヤいい裏ふ角ふ我を狩ふ入世世と
ひらくノ一世一人前り踏き
ふを射ふ法命を合ふて

法世ふてやうふ出ふ（シテ）ヲ法
裏ふ取ふ（面アゲ）ふ云ふ事
を何ふまてを所法ふ法ふ
れふて所人ふ法ふられふ
ふ一辞ーヤ忘ヲのふいふ（面下ケ チツキ）
所意をいい月紀ヤ百裏裏いや
世とたのむ三いとものるいい有
まーふれ（シテ）所意をはいうて当へ
紀忘ふを一人撰まれ申弱き失はれ（面上ケ）
との所法ヲ矢面ての面目ふを
恭ふ（手ツキ）私ふとふを云ふふ我忠を（判官見）

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用